



ガバナー・熊澤忠躬 巴津子夫人

1995～96年度 第2660地区

ガバナー 熊澤 忠躬

守口ロータリークラブ

入会 1977年2月9日(昭和52年)

会長 1986年～87年度(昭和61年～62年度)

特別な奉仕 W. C. S. として

1981年 フィリピン・ネグロス島医療奉仕(第2次)

1982年 フィリピン・パコドRCとの姉妹

提携調印式参加

1983年 フィリピン・ネグロス島医療奉仕(第3次)

1986年 フィリピン・ネグロス島医療奉仕(第7次)

団長として参加

新年度にあたり

ガバナー就任挨拶

平和への限りない努力を

拝啓 クラブ会長並びに幹事殿

1995～96年度の新しいロータリー年度が「真心の行動、慈愛の奉仕、平和への挺身」の新テーマをもって、ハーバート G. ブラウンRI会長の指導のもとに出発しました。

浅学非才の私ではありますが、アナハイムの国際協議会、ニースの国際大会において、ロータリー会員であるという誇りと、ガバナーの職責の重大さとに身の引き締まる様な感動を覚えるとともに、RI会長の心意気に共鳴し、この一年間皆様と共に困難をのり切って、平和への限りない努力を実行していきたいと念願しております。

昔、中国に老子という哲人がおりました。孔子・孟子は、論語に代表される様に優等生でありまして、儒学をもって帝王に治世をすすめてましたが、老子になると孔子とは違って、一段と味のある考え方をされていて、私はむしろ老子の方が好きです。

ある時帝王が、老子に「長の長たる者は如何に」と問うた時、「無為にして民自ら化す」と答えました。まるで空気の様な存在であれと諭した様です。しかし、帝王をとりまく大臣が、何もしないとその国は滅びます。大臣閣僚が八面六臂に働くという一大条件が必要となるわけです。

PETS・地区協議会で拝見していますと、今、私のまわりには、まさに活動力に溢れたクラブ会長・幹事・各委員長・委員の多士済々の方々が集まっておられますので大そう心強く感じております。まるで空気の様な存在でガバナー職が務まり

そうです。第2660地区を今日の様に、発展させて戴いたパスト・ガバナーの皆様、多くの先輩ロータリアンの暖かい御指導を仰ぎながら皆様と一緒に頑張っ
てゆきましょう。

ノミニーの一年間、各種委員会、会合に出席し、各種情報誌に目を通し、ロータリーとは何か、これで良いのかロータリーと考えつづけて来ました。時にこれこそと意気込んだこともあります。時には我が身の未熟さに落ち込み、本音と建前とのジレンマに悩みつづけたこともあります。今ようやく判ったことは、すべての奉仕活動はロータリアンの誠実さの各方面における異なった表現であるということです。今やっと人前で意見が述べられる心境になって参りました。まず、

ガバナー・会長・幹事の使命とは何か

(1) 誰よりもロータリーのルール・情報に精通すること

地区・クラブには必ず1～2名の生き字引の様な方がおられます。この様な方を師として尊敬し、教を仰ぎながらも、自信のつくまで勉強すべきだと思います。まず手続要覧を少なくとも三回は読んでみて下さい。又、ロータリーの友とガバナー月信とに必ず目を通しておいてください。

本年度の月信はガバナーから会長・幹事のみに親書として発信します。もし会員全員に知らせたい場合には、例会又は理事会で会長又は幹事が説明するか、掲示板に表示するか、又は一部をコピーして渡して戴きたいと願います。これは私のロータリーの原点に戻りたいとの念願を、諮問委員会も賛成して下さった事情によるものです。但し、第一号のみは重要なグラフが多いので、全員に発信します。しかしながらルールに精通するとつい他人に注意し過ぎて、いわゆるロタキチになり皆に嫌われることもあるので、それ以上に大切なことは、

(2) 誰よりもロータリーの精神を理解すること

手続要覧を見ると随所にロータリーの哲学が貫き通されています。一業種一人。役員任期は一年を限度とすること。奉仕活動はなるべく短年度で終了すること。募金は任意にすること。ロータリアン家族には財団奨学生受験の資格のないこと等、すべてロータリーのファッション化を防ぎ、又ロータリーを私有化しない様に配慮されています。又、本音と建前の問題に悩まされます。真実を尊ぶことは、ロータリーの本領であります。真実という言葉は意味深長です。目の前にあること、自分の体で感ずる事を以って本音(真実)だとすると大きな誤りとなり、これを公表すると次元の低いこととなります。真実を知るには英知と学問とが必要です。

次に最も大切なことは、

(3) 誰よりもロータリー・ロータリアンを愛すること

奉仕の実際に入ると、個人により種々な考え方、方法があります。しかし皆様よかれと思ってやっておられるので自分の利のためではありません。ですから

決して非難すべきではないと思います。ここにロータリーの寛容と理解という精神が浮かんで来るわけです。

この3つの心構えさえあれば大過なく任務を遂行できるものと考え、敢えて述べさせて戴きます。

次に、今まで考えた私の理想、悩みを集大成して次の様な三つの方針に重点を指向したいと思います。

重点方針

① 阪神大震災に対して救援奉仕の実行

本年1月17日予想もしなかった大地震が、兵庫南部、大阪西部の都市を襲い、甚大な災害を与えました。隣の地区及び当地区内の被災をうけられた方に対し、幸いにも無傷のロータリアンとして、これこそ壮大な奉仕の実験テーマが、与えられたわけです。初期の救援には、各クラブ・各ロータリアン個人の目覚ましい活躍がなされました。半年たちました今日は、中期・長期の救援が切実になって来ます。むしろ、これからの方が、サイレントではありますが、より重要となるでしょう。全力をあげてこれにとり組もうではありませんか。

② 会員増強の実現

現在、世界的に見ても、ロータリー会員は減少傾向にあり、当地区でも例外ではありません。入会者もさることながら退会者数も上昇気味です。その理由は、種々ありますが、もしロータリーの魅力が薄れて来ている前兆であれば、ゆゆしい大問題です。それに、チャーターメンバーが老齢化して、自然減は増加します。こうした事に考えが及ぶと、ロータリーの将来に危機感が生じて来ます。この意味で今年度はすべてのプロジェクトを、会員増強に集約してみませんか。この意味で、新しく地区親睦委員会をつくりました。広報にも重点をおいています。ロータリーの活躍・精神を社会一般の人に知って貰うことは、優秀な新会員が増加される要因になるはずで

③ リストラのすすめ

年毎にロータリーの行事は、派手になって来ているのは事実です。何時かはこれに歯止めをかけなければと考えている人も多くいます。今年の大震災は、一つの契機になってくれました。世の中も自粛方向に動いています。中野直前ガバナーも、質素ではあるけれど、実のある大会を遂行されました。私は、この良い習慣をうけつぎたいと望みます。

ガバナー月信も、前述の様に、今年度は会長・幹事にのみ送るという本来の姿に戻したいと思います。それだけに会長・幹事は、月信をしっかりと読んで会員の皆様に周知させて下さる様切望します。経費の点からみても、月信だけで約500万円の節約が出来、これを予備費として緊急救援対策費に当てようと企画しています。浄財を募る場合でも、人頭割りをさけて本人・クラブの積極的な自由意志による方針にしたいと願っています。

皆様のご協力を心よりお願い申し上げてご挨拶といたします。